

ひかりのこ

8,9月園便り

聖ミカエル幼稚園
2016年8月19日

月主題：ゆったりと、のびのびと

「環境を整える」

春より着工していた管理棟が完成しました。保護者の皆様にも、子ども達にも工事の最中、不自由な思いをさせてしまったことと思います。ご協力、ありがとうございました。

夏休みの終盤に職員みんなで物の移動や片づけを行いました。さすが片づけ上手な先生方、あっという間にすっきりときれいになりました。

もともとは教員が4人からスタートした職員室は、今ではチャプレン、園長を含めて18名です。園長のスペースと、会計書類、歴史を感じる書類が場所の大きさを締め切っており、行事の打ち合わせの時は、みんなが狭い中にひしめき合って座る、と言う状況でした。先生が多くなれば園児たちに細やかな保育ができるのは確かですが、先生方が働く場所が分断され、日々の会話を十分に交わせないまま、毎日が過ぎていったのも確かです。「これではいけない。みんなが集う場所を作らなければ。」と言う思いが私の中に強くありました。

職員室は驚くほどすっきりしました。やはり、もともとが狭い空間です。みんなが伸び伸びと座れるところまではいきませんが、みんなで、職員室で仕事ができるようになりました。ほかの園では当たり前だった職員会議はいつもホールで行っていましたがこれからは職員室で行うことができます。

「管理棟」のため、直接保護者の皆様や、子ども達に還元できる場所は少ないのですが、2階に相談室と園長室ができましたので、ゆっくりと皆様とお話もできるようになりました。

また、ホールの上の段の行事で使う物品を管理棟に移しましたので、父母の会は上の段と一部重たいものは下の段も使うことができます。下の段は主に子ども達が日ごろホールで使う遊具等を収納しました。

加えて、外の砂場が新しくなりました。管理棟横のスペースには木の間にテーブルとベンチが置かれ、子ども達や保護者の皆様にとってちょっとした憩いの場所になるのではないのでしょうか。

昔の聖ミカエル幼稚園もとっても素敵でしたが、細やかな保育を望む社会の流れを考えると、この形が最適であると私は考えています。伝統ある聖ミカエル幼稚園の昔からの良さを失うことなく、より良い保育には何が必要かを今後も考えていきたいと思っております。保護者の皆さんも懇

談会や幼稚園にいらしたときなどに、良い提案があれば園長にお伝えいただくとありがたいです。

2学期、新しい環境の中で、より良い保育ができますよう、私達も努力してまいります。

どうぞよろしくお願いたします。

園長 渡部良子

キリスト教保育

「文武両道」

私が通っていた高校はとてもユニークでした。ある日、体育の授業で、先生が長い棒をもって来て、棒高跳びをするとのこと。ただしオリンピックで見るとは長さではなく、物干し竿のような棒でした。それでも怖くてなかなか体は浮かず、ただ棒を持って走るという哀れな結末となりました。また冬のスキー授業では、アルペンスキーの装備のまま10メートルほどのジャンプをせよとの命令で、生徒も面白がってやった結果、怪我人続出で中止となりました。のどかな時代でした。どうやら学校は文武両道を目指し、馴染みのないスポーツも体験させようとしたのです。

勉強ができるだけとか、体育が得意なだけという状態を「偏っている」と見なす傾向が日本にはあるようです。でも、この考えのもとで、多くの児童生徒が辛く恥ずかしい思いをしてきました。子どもにそれを強いてしまうのなら、文武両道とは罪な発想だと思います。

しかし、心と体の関係を整える必要は誰にでもあるものです。例えば、最近は精神医学の面でも、軽度の鬱状態は運動で改善する可能性があることが指摘されています。そういえば、嫌な思いをした時は、なるべく体を動かすと発散できることは、身に覚えがあるのではないのでしょうか。

私の想像では、子どもたちは大人よりも自然に、心とからだの調和をとることに長けているように見えます。遊びこそ、その源と言えるでしょう。秋に向かって、外で思い切り体を使って遊び、遊びを通して大切なことを学ぶ。また心を使ってお祈りをする。子どもたちにとって本当の意味での文武両道は、遊びの中で実現し、育まれるに違いありません。2学期を迎え心もからだも、ますます元気になりますように。

チャプレン 司祭 下澤 昌